

## 議案第 3 号

### 地域公共交通の活性化に向けた課題の整理について

岩内町における公共交通の特性及び地域公共交通の活性化に向けた課題を、次のとおり整理する。

## 地域公共交通の活性化に向けた課題の整理

### 1 岩内町における公共交通の特性

岩内町を運行している路線バスは現在5路線運行されており、すべて岩内バスターミナルを起終点としている。4路線は他市町村とを結ぶバス路線であり、町内だけで完結する路線は1路線のみである。

他市町村と結ぶバス路線は、市町村間をネットワークすることが大きな目的としており、基本的に国道をルートとしてバスターミナルに入る経路となっている。このため、バス停留所は国道沿道にしかなく、面的に市街地をカバーするような路線とは言い難い。本年度実施した乗降調査の結果を見ると、これらの路線は町内での移動のためには、ほとんど利用されていない。

また町内路線である岩内円山線は、バスターミナルと郊外のレクリエーションゾーンである円山地区を結ぶ路線であり、町内の主要な施設をネットワークするといった路線とはなっていない。

岩内協会病院、大型商業施設、役場（移転後）、郵便局などが立地する八幡通を通るバス路線がなく、住民アンケート調査においても、町内を面的にネットワークする公共交通の要望意見が多くあげられている。

図 岩内町を運行する路線バス概要

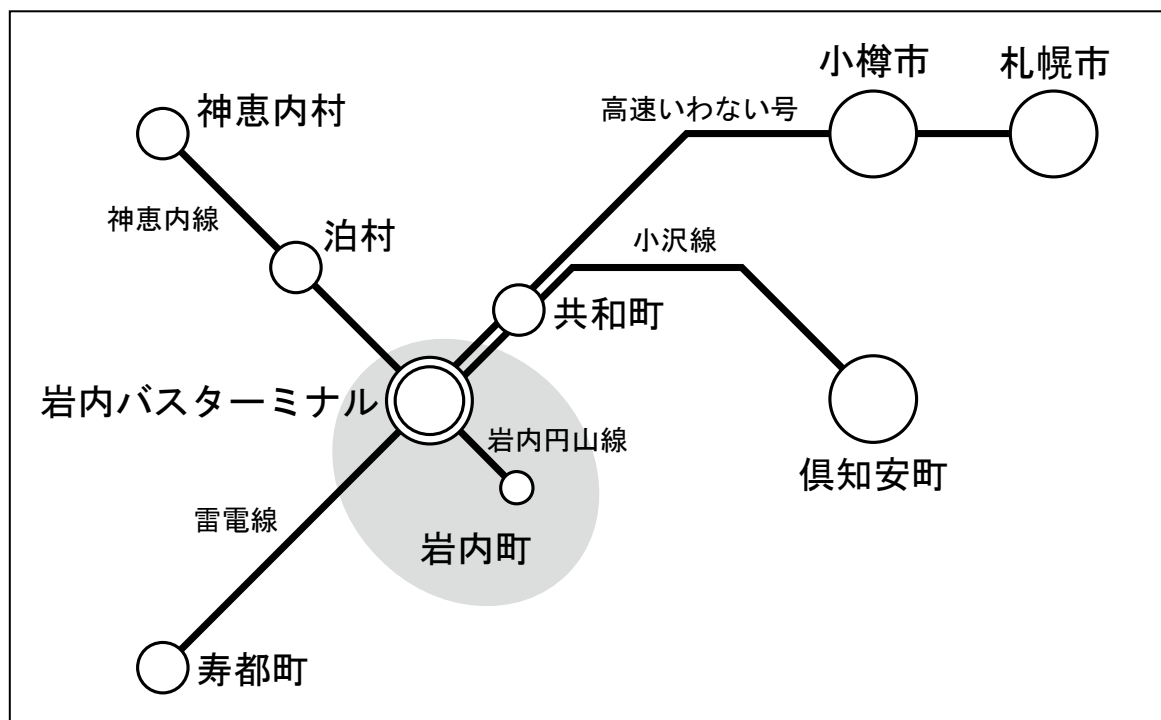


表 岩内町を運行する路線バス概要

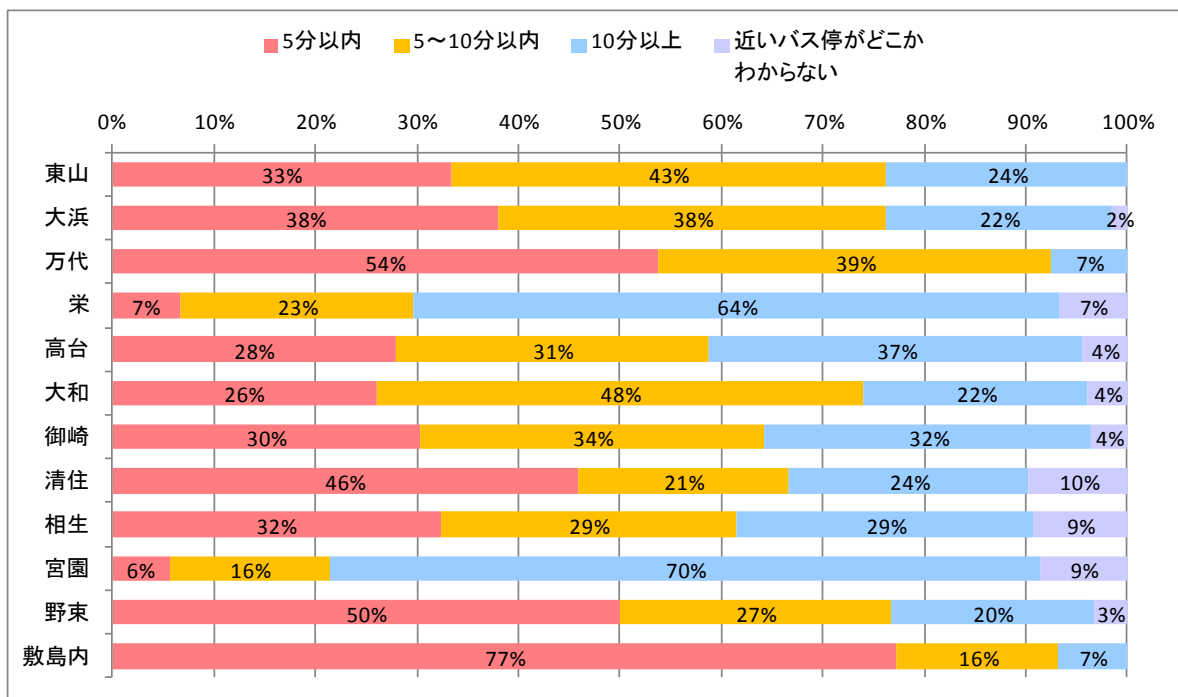
区分	名称等	ルート等	頻度等	備考
広域路線	高速いわない号	岩内 ～共和・小樽・札幌	16往復/日	北海道中央バス
	神恵内線	岩内 ～泊・神恵内	12往復/日	北海道中央バス
	雷電線	岩内 ～寿都	6往復/日	ニセコバス
	小沢線	岩内 ～共和・倶知安	9往復/日	ニセコバス
町内路線	岩内円山線	岩内バスターミナル ～円山方面	4循環/日	北海道中央バス

※平日ダイヤ

岩内町の地域特性としてコンパクトな市街地であることがあげられる。住民アンケート調査結果を見ると、一番近いバス停までの所要時間は「10分以内」が60%を超えている。しかし町内を面的にカバーするバス路線がないこともあり、地区別では一番近いバス停まで「10分以上」がそれぞれ70%や64%に上る地区もあるなど、地区によって路線バスの利便性に大きな差がある。

また、コンパクトな市街地であることから目的地までの移動距離が短く、タクシーによる移動が多いのも、岩内町の特徴と言える。

図 地区別 一番近いバス停までの所要時間（徒歩）



## 2 地域公共交通の活性化に向けた課題の整理

岩内町の公共交通の現状、特性及びニーズ調査結果を踏まえ、岩内町における地域公共交通の活性化に向けた課題を次のとおり整理した。

### (1) 町内を面的にネットワークする新たな公共交通網の形成

岩内町内における移動の足を確保するため、町内の主要施設（役場等の公共施設や病院、商業施設等）とバスターミナル、後背住宅地を面的にネットワークする新たな公共交通網の形成に向けて、現状の路線バスの運行ルートや地区別の人口ボリュームなどの地区特性も踏まえて検討が必要である。

### (2) 公共交通利用促進・活性化に向けた情報発信の強化・充実

住民アンケート調査結果からも、町民のバスの利用はそれほど多くない。また、バスを利用するときの移動先は「町外」が多い。これは町内での移動に利用できる路線があまりないことにもよるが、前述の新たな公共交通網の形成検討とあわせて、町民へバス路線や料金、利用方法などをきめ細かに発信するなど、利用促進に向けた検討が必要である。

また、町内だけではなく、岩宇4町村、倶知安町など住民生活圏における利用促進を意識した情報発信も検討が必要である。

十勝バスにおける情報発信例：目的別時刻表

### (3) 地域が一体となった取り組みの展開

これからの高齢社会にあっては、移動を車に頼らざるを得ない状況は好ましくない。

住民アンケート調査結果をみると、現在車を運転している方は約6割であり、「運転する」と回答された方の今後の自動車の運転予定は「80歳未満」の合計で60%、「85歳未満」の合計では86%という結果となっている。

地域内での生活を支える移動手段として、公共交通が果たす役割は、今後ますます重要となってくる。

このため、バス路線の維持・確保、利便性の向上、新たな公共交通の導入にあたっては、行政や交通事業者だけではなく、町民の積極的な公共交通利用や商店街との連携など、地域が一体となって取り組むことが必要である。

### (4) PDCAサイクルによる事業評価の導入

地域公共交通の活性化に向けては、今後さまざまな取り組みが考えられるが、この取り組みを継続的に実施していく（Do）とともに、その取り組みについて結果を評価し（Check）、問題点や改善すべき点があれば見直し（Action）、次の新たな取り組みの計画を検討する（Plan）、PDCAサイクルに基づく事業評価の導入により、公共交通活性化に向けた持続的な取り組みの推進が必要である。